



光善寺の玄関に飾ってある棟方志功の「二河白道」の版画

光善寺通信 第108号

新年号

発行人：柳川信行
発行日：2022、01、01
106-0046
港区元麻布1-7-4
浄土真宗本願寺派
光善寺
03-3451-3372
光善寺ホームページ



1月の予定

9日～16日

宗祖親鸞聖人ご命日
法要（ご正忌報恩講）
（京都ご本山）
去年に引き続き、
YouTubeの西本願寺
チャンネルでライブ
配信される予定です。

***新年会は中止します。**

2月の予定

「仏教講座」

感染状況をみて、ホームページでご案内します。

今年もコロナ禍の中、新しい年が開けました。門信徒の皆様には、新しい生活環境の中でお健やかに新年をお迎えの事と存じます。

人生は悲喜交々、思い通りにはなりません。そんな時こそ、先達は「阿弥陀様のご催促」としてわが身、人生を振り返る尊いご縁とされてきました。仏法は我が身を写す鏡。そこに写るのは、罪業深重、生死流転を繰り返してきた迷いの姿です。

中国の高僧、善導大師は、衆生が迷いの世界から浄土に往生していく様を「二河白道」という比喻でお示し下さいました。自分の心の中にある貪愛（水の河）・瞋憎（火の河）の二河の中に阿弥陀如来の大慈悲心が白い一筋の道となつて貫き、この私を浄土へと導いて下さっています。後ろからは、釈尊の教えが「その道を進め」と背中を押し、前からは「我が名を称えよ。必ず救う。一心にその道を進め」と阿弥陀様と呼び続けてくださっています。その者は二尊の導きにより、生死流転する迷いの命から、浄土へ旅する命へと生き方を転じ、とうとうその二河を渡り切り、懐かしい方々の待つ浄土へ渡る事ができたというお話です。お念仏は生死の苦海を渡す願船。その船に乗る事を「他力の信心」を恵まれると言います。今年もご一緒に浄土への旅を続けて参りましょう。

釈 眞諦